

各 位

2024年6月27日
株式会社インプレス

生成AIをはじめとした新しいテクノロジーに情報サービス企業はどう向き合うのか
『デジタル化による社会変化と新しいテクノロジーの活用 情報サービス産業白書 2024』
を6月28日（金）に発売

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、デジタルトランスフォーメーション（DX）を牽引する、生成AIをはじめとした新しいテクノロジーに対して、情報サービス企業がどう取り組んでいくべきかを提示する『デジタル化による社会変化と新しいテクノロジーの活用 情報サービス産業白書2024』を2024年6月28日（金）に発売いたします。



■情報サービス産業白書の最新版

1986年に刊行が始まった「情報サービス産業白書」は、企業情報システムの開発を請け負う情報サービス企業に、最新のテーマに基づいた提言を行ってきました。その最新版である「情報サービス産業白書2024」では、生成AIをはじめとする新しいテクノロジーに対して、情報サービス企業やユーザー企業がどう考え、どのように取り組んでいるのかを明らかにし、情報サービス企業が進むべき道筋を示します。

■新しいテクノロジーに対するユーザー／ベンダー間の認識のギャップが明らかに

本書の第1部では、DXの実装に向けて、情報サービス産業に求められる資産（能力）の変化を検証します。新しいテクノロジーに対して、情報サービス企業がどのように取り組み、ユーザーへの提供に至っているのか、ユーザー企業、情報サービス企業へのアンケートおよびヒアリングにより明らかにし、両社の間にどのようなギャップがあるのかを洗い出します。その結果をもとに、情報サービス企業の進むべき道筋を示します。第2部では、情報サービス企業が特に注目すべきテーマについて、情報サービス産業協会（JISA）会員企業に所属する有識者による最新の動向と見解を紹介いたします。これにより、生成AIをはじめとした新しいテクノロジーの、リアルな現在地を知ることができます。

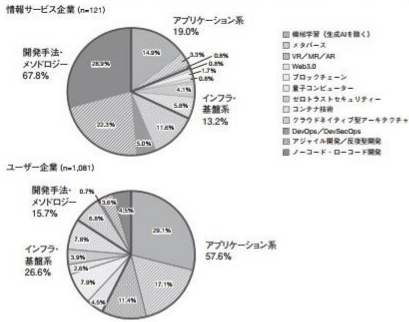
■本書は以下のような方におすすめです

- ・ 情報サービス企業にお勤めの方
- ・ ユーザー企業のシステム部門にお勤めの方
- ・ 企業のDXを推進する立場の方
- ・ 大学、研究機関の方

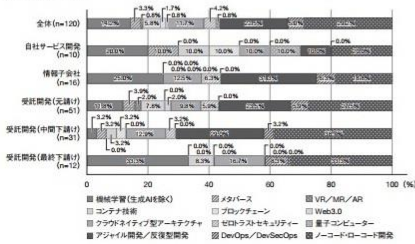
■紙面イメージ

第1部 デジタル化による社会変化と新しいテクノロジーの活用

【図表1-2-2-15 情報サービス企業(上)およびユーザー企業(下)における重視するテクノロジー(単一回答)

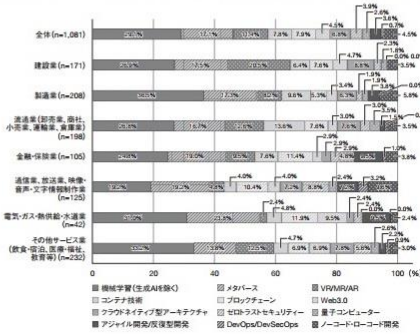


【図表1-2-2-16 情報サービス企業における最も重視するテクノロジー(最も割合の高い開発形態ごと)(項目ごとに単一回答)



学習であり29.1%が選択した。開発手法・メソッドを選択した企業の割合は相対的に低くなっているが、「ノーコード・ローコード開発」を重視するテクノロジーとして挙げる企業も49社(4.5%)あった。そのうち19社では全社的もしくは部署単位での活用を既に開始している。その他の技術を選択している企業も含め、25.9%がノーコード・ローコード開発を活用している。また、調査時点では社内業務、顧客向けサービスのいずれにも適用できていないものの今後の活用を検討している企業は32.0%であった。自社の商材に直接的な貢献をもたらすアプリケーション系のテクノロジーへの期待が大きい一方で、自社のビジネスニーズに合わせてアプリケーションを構築するためにノーコード・ローコード開発を活用したいと意向がユーザー企業の中に芽生えているのかもしれない。

【図表1-2-2-17 ユーザー企業の重視するテクノロジー(生成AIを除く、業種ごと)(項目ごとに単一回答)



情報サービス企業とユーザー企業の双方にアンケート調査を実施

第2部 情報サービス産業の概況

第2章 情報サービス産業を取り巻く環境の動向

第1節 社会にインパクトを与える生成AI

飯田 正仁 福島 悠明

1 生成AIの概要

生成AIの定義

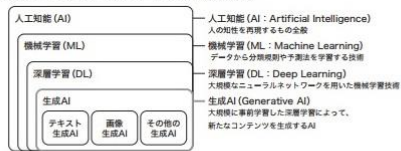
生成AIについて厳密な定義はされていないが、一般的に「大規模に事前学習した深層学習モデルによって、新たなコンテンツを生成するAI」と理解されている。生成AIは人工知能(AI: Artificial Intelligence)、機械学習

(ML: Machine Learning)、深層学習(DL: Deep Learning)に属する技術である。代表的な生成AIに、テキスト生成AIや画像生成AIがある(図表2-2-1-1)。

テキスト生成AI

テキスト生成AIは、人間が書くような文章を生成するAIである。大きな話題となった

【図表2-2-1-1 主な生成AIモデル・サービス(2024年3月時点)



画像生成AI

画像生成AIは、指定されたテーマや条件に基づいて画像を生成するAIである。「DALL-E」(OpenAI)、「Stable Diffusion」(Stability AI)、「Midjourney」(Midjourney)、「Adobe Firefly」(Adobe)などがある。利用環境や料金、画像生成速度や生成画像品質などに違いがある。

その他の生成AI

代表的とされるテキスト生成AIや画像生成AIの他にも、さまざまな生成AIがある。

技術の熟度には差はあるものの、例えば動画生成AI、コード生成AI、音声合成AI、音楽生成AI、3Dモデル生成AI、などが登場している。プログラムコードを生成可能なコード生成AIは、プログラミング作業の効率を大幅に向上させると期待され、多くの企業やプログラマーに利用されている(図表2-2-1-2)。

OpenAIの「ChatGPT」は、GPT-3.5、GPT-4というテキスト生成AIモデルが組み込まれた生成AIサービスである。

Microsoftからも、生成AIサービスが展開されている。「Copilot」は、インターネット上の情報をいながら、ブラウザー上で検索や要約といった幅広い作業を支援する。「Copilot for Microsoft 365」は、Microsoft 365内に保存されたデータを活用しながら、Excel、Word、PowerPoint、Outlook、Teamsなどオフィスワーカーの業務アプリケーションの作業を支援する。

Googleの生成AI「Gemini (IH Bard)」は、テキストに加えて画像や音声、動画などの入力も理解して回答を生成するマルチモーダル処理に対応している。多くの形式に対応することで処理可能な領域が広がることから、今後マルチモーダル対応可能なモデルは増える

と予想される。OpenAIからもマルチモーダル対応可能な「GPT-4V」が提供されている。

Googleの生成AI「Gemini (IH Bard)」は、テキストに加えて画像や音声、動画などの入力も理解して回答を生成するマルチモーダル処理に対応している。多くの形式に対応することで処理可能な領域が広がることから、今後マルチモーダル対応可能なモデルは増える

と予想される。OpenAIからもマルチモーダル対応可能な「GPT-4V」が提供されている。

【図表2-2-1-2 主な生成AIモデル・サービス(2024年3月時点)

分類	名称	開発元	分類	名称	開発元
テキスト生成AI	GPT-4, ChatGPT 4	OpenAI	コード生成AI	GitHub Copilot	GitHub/OpenAI
	Copilot, Copilot for Microsoft365	Microsoft		OpenAI Codex	OpenAI
	Gemini 1.0, Gemini 1.5	Google		Cursor AI for developers	Cursor
	Llama 2, Llama Chat	Meta		Clock Labs	Meta
	Claude 2.1, Claude 3	Anthropic		Amazon CodeWhisperer	Amazon
	ERNIE 4.0, ERNIE Bot 4.0	Baidu		Cursor	AnySphere
画像生成AI	Stable Diffusion XL 1.0	Stability AI	音声生成AI	VALL-E (V)	Microsoft
	Midjourney V6	Midjourney		Voicebox	Meta
	DALL-E 2, DALL-E 3	OpenAI		AudioCraft	Google
	Midjourney V6	Midjourney		MusicGen	Meta
	Adobe Firefly	Adobe		AmiBeat	ソニー
	Stable Audio	Stability AI		3Dモデル生成AI	Magic3D
Midjourney V6	Midjourney	Shap-E	OpenAI		
Lumina	Google Research				
Runo AI	Runo AI				
Captiva	連華大学				
Sora	OpenAI				

生成AIなど注目のテーマを独自視点で掘り下げて解説

■本書の構成

第1部 デジタル化による社会変化と新しいテクノロジーの活用

第1章 テーマの背景と問題意識

第2章 ユーザー企業と情報サービス産業の動向

第3章 新たなテクノロジーと情報サービス企業が果たすべき重要な役割

第4章 情報サービス産業の近未来像

第2部 情報サービス産業の概況

第1章 JISA調査・統計等で概観する情報サービス産業のトレンド

第2章 情報サービス産業を取り巻く環境の動向

データ編

■書誌情報



書名：デジタル化による社会変化と新しいテクノロジーの活用
情報サービス産業白書2024

編集：一般社団法人 情報サービス産業協会

発売日：2024年6月28日（金）

ページ数：240ページ

サイズ：B5判

定価：3,300円（本体3,000円＋税10%）

電子版価格：3,300円（本体3,000円＋税10%）※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-019107

◇Amazonの書籍情報ページ：

<https://www.amazon.co.jp/dp/4295019100/>

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impress.co.jp/books/1124101013>

■著者プロフィール

一般社団法人 情報サービス産業協会（いっばんしゃだんほうじん・じょうほうさーびすさんぎょうきょうかい）

国内の主要な情報サービス会社で構成されるIT業界団体として、1984年に2つの団体を統合し、経済産業省認可の業界団体として設立された。情報関連技術の開発促進、情報化の基盤整備などを通じ、情報サービス産業の健全な発展と我が国の情報化の促進を目的としている。

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計 8,000 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向け IT 関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT 関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: pr-info@impress.co.jp URL: <https://www.impress.co.jp/>

※弊社はテレワーク推奨中のため電話でのお問い合わせを停止しております。メールまたは Web サイトからお問い合わせください。